

|                |    |     |    |       |
|----------------|----|-----|----|-------|
| 人間社会学部／地域社会コース | 職名 | 准教授 | 氏名 | 堤 圭史郎 |
|----------------|----|-----|----|-------|

## 1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。同大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、一般社団法人社会調査協会より、第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究・生活困窮者支援モデルに関する研究・大都市都心のコミュニティ状況把握等を行っている。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

鯉坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎・田中志敬, 2018, 「『都心回帰』による大都市のマンション住民と地域生活—京都市中京区と大阪市中心部のマンション住民調査より」『評論・社会科学』124: 1-105.

### ②その他最近の業績

〈学会報告〉

堤圭史郎, 「生活困窮者自立支援とまちづくり—排除と差別に抗する地域社会の可能性」日本政経社会学会 2018 Japan study colloquium, 漢陽大学日本学国際比較研究所, 2018年12月.

〈討論者〉

日本社会病理学会第32回大会公開シンポジウム「生活困窮問題の現状と課題」にて討論者 (2016年9月24日。於福岡県立大学)

〈学会シンポジウム〉

西日本社会学会第75回大会シンポジウム『熊本地震と社会学—被災のリアリティと政策形成を繋ぐ視点』にてコーディネーター・司会 (2017年5月14日。於松山大学)

〈研究報告書等〉

特定非営利活動法人 抱樸, 2018, 『困窮孤立状態におかれた子どもへの支援とその連鎖を防止するため世帯支援を一体的、包括的に実施するための支援メニューとそのためのツールの開発、地域連携のあり方に関する調査研究およびそのパイロット事業の実施に関する調査研究事業』厚生労働省平成28年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業)。(第II章を共同執筆)。

特定非営利活動法人 抱樸, 2017, 『ひきこもり状態にある若年者・児童およびスネップ状態にある者とその家族を支える包摂型世帯支援の構築と、世帯の支援メニューと支援ツールの開発、および困窮世帯を支える市民参加型の地域連携の在り方に関する調査・研究事業報告書』厚生労働省平成28年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(社会福祉推進事業)。(第3章3節2項を執筆)

堤圭史郎, 2016, 「経済・就労の状況」福岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課『平成27年度隣保館人権課題把握調査報告書』, 17-32.

特定非営利活動法人 抱樸, 2016, 『地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業報告書』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書。(第1章・第4章を執筆)

〈書評〉

堤圭史郎, 2016, 「友枝敏雄編『リスク社会を生きる若者たち—高校生の意識調査から—』  
『西日本社会学会年報』14:95-6.

〈エッセイ〉

堤圭史郎, 2016, 「『ヤマちゃん』は語ることができるか—ホームレスの人々と人権—」福  
岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課『私たちはなぜ、人権について学ぶのか』,  
61-4. (若者人権講座テキスト)

〈講演録〉

池勝・鍋山公一・山田明・堤圭史郎, 2017, 「シンポジウム 住民の人権意識と啓発の課題」  
『リベラシオン』166.

堤圭史郎, 2016, 「生活困窮が深まる中で、学校に期待すること」田川地区子どもの人権・  
進路保障確立協議会『2016年度報告書』.

### ③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

Tsutsumi, Keishiro, "Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese Homeless  
Issue in Globalization," "The 2nd International Conference on Locality and  
Humanities--Locality, Beyond the border of Space and Cognition," Pusan  
National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮  
と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会  
学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89. (本稿にて第4回社会  
調査協会賞『社会と調査』賞を受賞)

堤圭史郎, 2013, 「多重債務世帯への社会的介入—『伴走型支援』を通じた当事者の主観的  
意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ  
書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5章「家族規範とホームレス  
—扶助か桎梏か」(妻木進吾との共著)を執筆。本稿にて第7回日本都市社会学会  
賞(磯村記念賞)を共同受賞)

### 3. 外部研究資金

- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C), 「生活困窮者自立支援に基づく排除と差別に抗する包摂=連帯型地域社会の可能性」, 課題番号 18K02000, 2018~20年度, 1,950千円, 研究代表者.
- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C), 「地域的に顕現する社会的排除の動態的把握—大阪府・国勢調査データの独自集計を中心に」, 2017~2019年度, 研究分担者(研究代表者: 妻木進吾・龍谷大学).
- ・文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究B), 「『選択と集中』時代における大都市都心の構造変動の研究:6大都市の比較」, 2016~2018年度, 研究分担者(研究代表者: 鯨坂学・同志社大学).

### 4. 受賞

該当なし

## 5. 所属学会

日本都市社会学会（編集委員）、西日本社会学会（編集委員）、日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、地域社会学会、ソシオロジ同人、貧困研究会、日本社会分析学会

## 6. 担当授業科目

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 社会学A・2単位・1年・前期       | 社会学B・2単位・1年・後期      |
| 社会病理学・2単位・2年・前期      | 社会変動と社会問題・2単位・2年・後期 |
| 公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期   | 公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期  |
| 日本事情B・2単位・留学生・前期（分担） | 卒業論文・6単位・4年・通年      |
| 地域問題研究・2単位・大学院・後期    |                     |

## 7. 社会貢献活動

- ・添田町子ども・子育て会議・会長
- ・添田町公の施設指定管理者候補者選定委員会・会長
- ・田川市社会教育委員
- ・特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・編集委員
- ・特定非営利活動法人抱樸・2018年度厚生労働省社会福祉推進事業・研究員
- ・福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員

## 8. 学外講義・講演

該当なし

## 9. 附属研究所の活動等

平成30年度研究奨励交付金（プロジェクト研究（COC研究））「福岡県におけるジェンダー平等・ダイバーシティ実現の現状と政策的課題」（研究代表者・坂無淳）、研究分担者.